

# 分析辞書

文章を分析するには、まず最小単位（単語）に分解する。分解のための辞書が下記である。

## 体言辞書

約13万単語

普通名詞約10万語、固有名詞2万5千語、他体言。普通名詞はよく使われている複合語のみが登録。他は1～3文字の単語が多い。固有名詞は地名、人名、組織名等。人名は姓と名を区分して登録している単語が多い。よく使われる複合語が出てくるとその都度登録。常に単語登録数は増えている。現段階で、一般文章、記事等は十分に網羅されている。参考であるが、昆虫名だけでも100万語を超える。薬品名、地名、物質名等々だけでも日本国語大辞典をはるかに超える。これらの中からは一般によく使われる単語は登録されている。

## 用言辞書

約1万4千単語

用言は動詞、形容詞のみが登録させれている。自動詞、他動詞の区分され登録。複合動詞も登録されている。サ変は「する」、力変「来る」のみが登録され、原則として複合語は登録されていない。但し、力変の一部の複合語は登録されている。

## 付属語辞書

### 助詞

約220単語

### 助動詞

約43単語

※参考 体言、用言、付属語の単語の全てに、感情、価値観、判断価値、欲求の分類が登録されている。

## 類語辞書

基本軸単語 約12000単語

1単語に対して、類語、反対語は1単語から10単語が登録されている。全体では5万語以上は登録されている。

## 反対語辞書

基本軸単語 約12000単語

## 活用語ファイル

活用語の未然形から命令形を示したファイルである。現代文でも文語混じりまであるので、古語の活用形も含めている。分析結果の近似文では、用言、助動詞はすべて終止形で表している。

## 感想単語ファイル

「思う」「考える」「感じる」などと、人称代名詞、特に一人称の「私」「我々」「我が社」などを感想単語と定義した。文意に影響せず、これらの語が多くなると、むしろ文章の簡潔さを失いやすくなる。または、目立ちすぎると趣旨の曖昧さが際立つ場合もある。分析対象にはなるが趣旨、論旨からは外している。